

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2		
年組	1年1組		教科書(発行所)	高等学校 新生物基礎 (第一学習社)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	オリエンテーション 生物の特徴	高校生物で何を学ぶのか 生物にみられる共通性 細胞構造の共通性 代謝とATP 代謝と酵素	○		○	<b>学習の目標</b>  生物や生命現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、生物や生命現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。 生物や生命現象に主体的に関わり、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育成する。	
5	遺伝子とその働き	(中間考査) 呼吸と光合成 染色体・DNA・遺伝子	○	○	○		
6		DNAの構造 DNAの複製 DNAの分配 細胞周期の観察	○	○	○		
7		(期末考査)	○	○	○		<b>授業の進め方</b>
7	ヒトのからだの調節	タンパク質の構造と働き 遺伝子の発現とタンパク質合成 "	○		○		授業は教科書とプリントを使って進める。 必要事項をプリントに記入し、あわせて、いろいろな問いや考察について自分で考え、答を導く過程で考える力を養う。 必要に応じて視聴覚教材も活用する。
8・9		細胞と遺伝子の働き	○		○		
9		恒常性と情報の伝達 神経系 自律神経系 ホルモンの働き	○	○	○		
10		(中間考査) 血統濃度の調節 からだの調節と血液の働き 病原体からからだを守るしくみ 自然免疫 獲得免疫のしくみ	○	○	○		
11		獲得免疫の特徴 免疫と疾患・免疫と医療	○	○	○		
12		(期末考査)	○	○	○		
12	生物の多様性と生態系	さまざまな植生 植物と環境 植生の遷移と環境	○	○	○	<知識・技能> 生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 生物や生物現象に関する問題を見出し、得られた結果を分析して解釈し、表現する能力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けているし。	
1	生物の多様性と生態系	植生の破壊と遷移 バイオーム 生態系 生物どうしの関係と種の多様性	○	○	○	<b>評価の方法</b>  <授業への取組> 授業に対する姿勢、学習態度、生物への関心などで評価する。 <観察・実験> 観察・実験に対する姿勢、考察、器具の操作、レポートなどで評価する。 <定期考査> 学習内容に応じて問題を出題する。	
2		生態系のバランスと攪乱 生態系の保全とその意義	○	○	○		
3		(学年末考査) 学習のまとめ	○	○	○		
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							
また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。							

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	
年組	1年2・3組		教科書(発行所)	新編 化学基礎(数研出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	序章 化学と人間生活 第1編物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成	1混合物と純物質 2物質とその成分 3物質の三態と熱運動	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	<b>学習の目標</b> 化学的な事物・事象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。自然現象における基本的概念や原理・法則を理解し化学的な自然観を身に付ける。  <b>授業の進め方</b> 教科書・問題集を使用し、内容の理解・定着を図る。実験・観察を通して理解を深めるとともに、応用力を身に付ける。
5	第2章 物質の構成粒子	1原子とその構造 2イオン 3周期表	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
6	第3章 粒子の結合	1イオン結合とイオンからなる物質 2分子と共有結合 3共有結合結晶 4金属結合と金属	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
7		(中間考査)	○	○	○	
7	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学変化	1原子量・分子量・式量 2物質質量	○ ○	○ ○	○ ○	
8・9		3溶液の濃度	○	○	○	
9		4化学反応式と物質質量	○	○	○	
10	第2章 酸と塩基の反応	1酸・塩基	○	○	○	
11		2水の電離と水溶液のpH	○	○	○	
12		3中和反応と塩 4中和滴定	○ ○	○ ○	○ ○	
12		(期末考査)	○	○	○	
12	第3章 酸化還元反応	1酸化と還元	○	○	○	<知識・技能> 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているとともに、観察・実験に関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 <思考・判断・表現> 自然の事物・事象に問題を見だし、思考を深め科学的に考察し表現できる。 <主体的に学習に取り組む態度> 自然の事物・事象に関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度が身に付いている。
1		2酸化剤と還元剤	○	○	○	
2		3金属の酸化還元反応	○	○	○	
2		4酸化還元反応の利用	○	○	○	
3	終章 化学が拓く世界		○	○	○	<b>評価の方法</b> 授業中の活動状況(授業態度、実験への取組)や提出物(ノート、問題集、実験レポート)及び定期テスト(小テストを含む)により評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評価に総括する。
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	2		
年組	2年3組理系		教科書(発行所)	新編 物理基礎(数研出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	運動の表し方	等速直線運動	○	○	○	<b>学習の目標</b> 生活との関連を図りながら、身の回りの物理現象について理解し、科学的に探究する基本的な技能を身に付ける。見通しをもって実験や観察を行い、物理的に探究する資質と能力を身に付ける。	
5	運動の法則	等加速度直線運動 重力加速度 落体の運動 力のはたらきとつり合い (中間考査)	○	○	○		
6	力学的エネルギー	運動の法則 運動方程式 摩擦や空気抵抗を受ける運動 仕事と仕事率 運動エネルギー 位置エネルギー	○	○	○		
7		(期末考査)	○	○	○		
7	熱エネルギー	力学的エネルギーの保存 保存力でない力がはたらく場合 温度と熱	○	○	○		<b>授業の進め方</b> 教科書にある基本事項を一つずつ確認しながら授業を進める。特に大切な事柄については、実際に実験を行ない、考察を進める。さらに問題集等を使って、演習問題に取り組みながら理解を深める。
8・9	波の性質	熱力学第一法則 不可逆変化と熱機関 媒質の振動と波の表し方 重ね合わせの原理と波の干渉 波の反射・屈折・回折 (中間考査)	○	○	○		
9			○	○	○		
10	電気	波としての音の性質 弦の振動・気柱の共鳴 電流とオームの法則 抵抗の接続 電力と電力量 交流と電磁波 (期末考査)	○	○	○		
11			○	○	○		
12			○	○	○		
12						<知識・技能> 物体の運動やエネルギーについて基本的な概念や法則を理解し、科学的に探究するために必要な技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 物体の運動やエネルギーに関して見通しをもって観察や実験を行い、結果を分析して解釈して表現する能力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 物体の運動やエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
1						<b>学習の方法</b> 授業のノートは、板書したことだけでなく、自分で気付いたことや考えたこともメモをとるよう心がける。実験の考察や演習問題は必ず自分で考え、自分の言葉で説明できるようにする。家庭学習では、問題を自分で解くことが大切。間違いを怖れずに自分の力で取り組もうとすることが、必ず思考力となって身に付けられる。	
2							
3							
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							
						<b>評価の方法</b> 平常点は、授業中の問いに対する答え方や課題の提出状況、実験の考察などをもとに評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。	

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	物理	単位数	1			
年組	2年3組理系		教科書(発行所)	高等学校 物理(啓林館)				
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目		
			知	思	態			
4						<b>学習の目標</b>		
5						物理学の基本的な概念や原理・法則に関する理解を深め、物理的に探究する技能を身に付ける。 見通しをもって実験や観察を行い、物理的に探究する資質と能力を身に付ける。		
6						<b>授業の進め方</b>		
7						教科書にある基本事項を一つずつ確認しながら、さらに考察をより深めて授業を進める。特に大切な事柄については、実際に実験を行ったり、専門家によるデータをもとに考察を進める。さらに問題集や過去の入試問題等を使って、演習問題に取り組みながら理解を深める。		
7						<b>学習の方法</b>		
8・9						授業のノートは、板書したことだけでなく、自分で気付いたことや考えたことは全て書き記すよう心がける。実験の考察や演習問題は必ず自分で考え、自分の言葉で説明できるようにする。家庭学習では問題を自分で解くことはもちろん、答を出すだけでなく、さらに考察を深めようとする態度が、思考力をより高めさせる。		
9						<b>評価の観点</b>		
10						<知識・技能> 物理的な事象・現象について基本的な原理や法則を理解するとともに、物理的に探究するために必要な技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 物理的な事象・現象に関して見通しをもって観察や実験を行い、得られた結果を分析して表現する能力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 物理的な事象・現象に主体的に関わりを持ち、科学的に探究しようとしている。		
11						<b>評価の方法</b>		
12	平常点は、授業中の板書説明や課題の提出状況、考察の記録などをもとに評価する。 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。							
12	運動と力	放物運動	○	○	○			
1		剛体のつり合い	○	○			○	
		熱と分子運動	運動量と力積	○				
2	運動量の保存	円運動と単振動	○	○	○			
	波動	万有引力	○	○			○	
3	気体分子の熱運動	気体分子の熱運動	○	○	○			
	熱力学第一法則	熱力学第一法則	○	○			○	
	気体の状態変化と熱・仕事	気体の状態変化と熱・仕事	○	○				
3	正弦波の表し方	正弦波の表し方	○	○	○			
	(学年末考査)	(学年末考査)	○	○			○	
	ドップラー効果	ドップラー効果	○	○				
3	レンズと球面鏡	レンズと球面鏡	○	○	○			
	光の回折と干渉	光の回折と干渉	○	○			○	
【備考】								
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。								

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	
年組	2年1組		教科書(発行所)	新編 化学基礎(数研出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	序章 化学と人間生活					<p><b>学習の目標</b></p> <p>化学的な事物・事象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。自然現象における基本的概念や原理・法則を理解し化学的な自然観を身に付ける。</p> <p><b>授業の進め方</b></p> <p>教科書・問題集を使用し、内容の理解・定着を図る。実験・観察を通して理解を深めるとともに、応用力を身に付ける。</p> <p><b>学習の方法</b></p> <p>学校では、授業に集中し実験には積極的に取り組む。疑問点などは必ず指導を受けること。家庭では、ノート、問題集を活用し復習を重点的に行う。</p> <p><b>評価の観点</b></p> <p>&lt;知識・技能&gt; 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているとともに、観察・実験に関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 &lt;思考・判断・表現&gt; 自然の事物・事象に問題を見だし、思考を深め科学的に考察し表現できる。 &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; 自然の事物・事象に関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度が身に付いている。</p> <p><b>評価の方法</b></p> <p>授業中の活動状況(授業態度、実験への取組)や提出物(ノート、問題集、実験レポート)及び定期テスト(小テストを含む)により評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評価に総括する。</p>
	第1編 物質の構成と化学結合					
	第1章 物質の構成	1混合物と純物質 2物質とその成分 3物質の三態と熱運動	○	○	○	
5	第2章 物質の構成粒子	1原子とその構造 2イオン 3周期表	○	○	○	
6	第3章 粒子の結合	1イオン結合とイオンからなる物質 2分子と共有結合 3共有結合結晶 4金属結合と金属	○	○	○	
7		(中間考査)	○	○	○	
		(期末考査)	○	○	○	
7	第2編 物質の変化					
8・9	第1章 物質と化学変化	1原子量・分子量・式量 2物質質量 3溶液の濃度	○	○	○	
9		4化学反応式と物質質量	○	○	○	
10	第2章 酸と塩基の反応	1酸・塩基 2水の電離と水溶液のpH 3中和反応と塩 4中和滴定	○	○	○	
11			○	○	○	
12		(期末考査)	○	○	○	
12	第3章 酸化還元反応	1酸化と還元 2酸化剤と還元剤 3金属の酸化還元反応 4酸化還元反応の利用	○	○	○	
1			○	○	○	
2			○	○	○	
3	終章 化学が拓く世界		○	○	○	
【備考】						
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	化学	単位数	2		
年組	2年3組理系		教科書(発行所)	化学(数研出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4 5 6 7	第1編 物質の状態 第1章 固体の構造	1結晶とアモルファス 2金属結合 3イオン結晶 4分子間力と分子結晶 5共有結合の結晶 (中間考査)	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	学習の目標 化学的な事物・事象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。自然現象における基本的概念や原理・法則を理解し化学的な自然観を身に付ける。	
	第2章 物質の状態変化	1粒子の熱運動 2三態の変化とエネルギー 3気液平衡の蒸気圧	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	授業の進め方 教科書・問題集を使用し、内容の理解・定着を図る。実験・観察を通して理解を深めるとともに、応用力を身に付ける。	
	第3章 気体	1気体の体積 2気体の状態方程式 3混合気体の圧力 4実在気体 (期末考査)	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○		
	7	第4章 溶液	1溶液とそのしくみ 2溶解度 3希薄溶液の性質	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	学習の方法 学校では、授業に集中し実験には積極的に取り組む。疑問点などは必ず指導を受けること。家庭では、ノート、問題集を活用し復習を重点的に行う。
	8・9	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー	4コロイド 1化学反応と熱 2ヘスの法則 3化学反応と光	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	
	9	第2章 電池と電気分解	1電池 2電気分解	○ ○	○ ○	○ ○	
	10	第3章 化学反応の速さ	1化学反応の速さ 2反応条件と反応速度 3化学反応のしくみ	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	
11	第4章 化学平衡	1可逆反応と化学平衡 2平衡状態の変化 3電解質水溶液の化学平衡 (期末考査)	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○		
12	第3編 無機物質 第1章 非金属元素	1元素の分類と周期表 2水素・貴ガス元素 3ハロゲン	○ ○	○ ○	○ ○	評価の方法 授業中の活動状況(授業態度、実験への取組)や提出物(ノート、問題集、実験レポート)及び定期テスト(小テストを含む)により評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。	
1	第2章 金属元素(I)	4酸素・硫黄 5窒素・リン 6炭素・ケイ素 1アルカリ金属 2アルカリ土類 3アルミニウム・スズ・鉛	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○		
2	第3章 金属元素(II)	1遷移元素の特徴 2鉄 3銅 4銀・金 5亜鉛 6クロム・マンガン	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○		
3		7その他の遷移金属 8金属イオンの分離・確認	○ ○	○ ○	○ ○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	
年組	2年2組		教科書(発行所)	高等学校 新生物基礎 (第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	生物の特徴  遺伝子とその働き	生物にみられる共通性	○			<b>学習の目標</b>  生物や生命現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、生物や生命現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。 生物や生命現象に主体的に関わり、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育成する。
5		細胞構造の共通性	○	○		
		代謝とATP	○		○	
		代謝と酵素	○	○		
		(中間考査)	○	○		
		呼吸と光合成	○			
		染色体・DNA・遺伝子	○			
6		DNAの構造	○	○		
		DNAの複製	○	○	○	
		DNAの分配	○	○		
7		細胞周期の観察	○	○		<b>授業の進め方</b>
		(期末考査)	○	○		
7	ヒトのからだの調節	タンパク質の構造と働き	○			授業は教科書とプリントを使って進める。 必要事項をプリントに記入し、あわせて、いろいろな問いや考察について自分で考え、答を導く過程で考える力を養う。 必要に応じて視聴覚教材も活用する。
8・9		遺伝子の発現とタンパク質合成	○		○	
		"			○	
		細胞と遺伝子の働き	○			
9		恒常性と情報の伝達	○			
		神経系	○			
		自律神経系	○			
		ホルモンの働き	○			
		(中間考査)	○	○		
10		血統濃度の調節	○	○		
		病原体からからだを守るしくみ	○			
		自然免疫	○			
11	獲得免疫のしくみ	○				
	獲得免疫の特徴	○	○			
	免疫と疾患	○		○		
	免疫と医療	○		○		
12		(期末考査)	○	○		<b>評価の観点</b>
12	生物の多様性と生態系	さまざまな植生	○			<知識・技能> 生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 生物や生物現象に関する問題を見出し、得られた結果を分析して解釈し、表現する能力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けているし。
		植物と環境	○	○		
		植生の遷移と環境	○	○		
1		遷移とバイオーム	○		○	
		日本のバイオーム	○		○	
		生態系	○			
		生物どうしの関係と種の多様性	○		○	
2		生態系のバランスと攪乱	○			
		生態系の保全とその意義	○	○		
	(学年末考査)	○	○			
3		学習のまとめ	○		○	<b>評価の方法</b>
			○		○	<授業への取組> 授業に対する姿勢、学習態度、生物への関心などで評価する。 <観察・実験> 観察・実験に対する姿勢、考察、器具の操作、レポートなどで評価する。 <定期考査> 学習内容に応じて問題を出題する。
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						
また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。						

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2								
年組	2年3組文系		教科書(発行所)	生物基礎(東京書籍)									
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目							
			知	思	態								
4	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生命活動とエネルギー	1多様性に見られる共通性 2生物の共通性としての細胞 1エネルギーと代謝 2酵素  (中間考査) 3生体内におけるエネルギー交換 4ミトコンドリアと葉緑体の起源	○	○	○	学習の目標 観察や実験を通して、科学的な見方や考え方を身に付ける。 生物や環境、私たちの体のしくみに興味を持ち、生活との関わりを考える。							
							5	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 生物と遺伝子	1遺伝情報とDNA 2DNAの構造 3ゲノムと遺伝情報	○	○	○	授業の進め方
7	2章 遺伝情報の分配	1細胞分裂とDNA 2細胞周期とDNAの複製	○	○	○	学習の方法							
							8・9	3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境	3遺伝情報の流れ 1体内環境の特徴 2心臓と血液の循環	○	○	○	授業では先生の説明を聞きながらプリント記入が中心となる。問いや考察については必ず自分で考えるようにする。プリントの気付いたことや感想の欄には、学んだことを自分の言葉で記入する。 家庭学習では教科書とプリントを何度も見返す。とくに教科書の内容としっかり関連付けて理解するようにする。
9	2章 体内環境を維持するしくみ	3体内環境を調整する器官 1自立神経系による調節 2内分泌系による調節	○	○	○	評価の観点							
							10	3章 免疫	1生体防御と免疫 2自然免疫 3適応免疫 4免疫とヒト	○	○	○	<知識・技能> 日常生活との関連を図りながら、生物や生物現象について基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な知識や技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 生物や生物現象に関する問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現する能力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
11	(期末考査)	○	○	○	○	評価の方法							
							12	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性と遷移	1植生とその環境 2植生と遷移	○	○	○	授業中の活動状況(授業態度、実験への取組)や提出物(ノート、問題集、実験レポート)及び定期テスト(小テストを含む)により評価する。 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。
1	2章 バイオームとその分布	1気候とバイオーム 2陸上のバイオーム	○	○	○	○							
							2	3章 生態系とその保全	1生態系とエネルギーの流れ 2生態系における生物の多様性	○	○	○	○
3	3生態系のバランスと保全	○	○	○	○								
						【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							





# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2		
年組	2年3組文系		教科書(発行所)	高等学校 地学基礎 (第一学習社)			
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点		項目	
				知	思	態	
4	地球のすがた     地球の活動	地球の形と大きさ		○		○	<b>学習の目標</b>  観察や実験を通して、科学的な見方や考え方を身に付ける。 地学や環境、私たちの体のしくみに興味を持ち、生活との関わりを考える。
		地球の内部構造		○	○		
		プレートの運動と境界		○	○		
		変成作用		○			
		大地形の形成			○		
5		(中間考査)		○	○		
		地震波の伝わり方		○	○		
	日本付近で発生する地震				○		
	火山の分布			○	○		
6		火山の噴火		○		○	
		火成岩の形成		○			
		火成岩の種類			○	○	
7		(期末考査)		○	○		
7	大気と海洋	大気構成と特徴		○			授業は教科書とプリントを使って進める。 必要事項をプリントに記入し、あわせて、いろいろな問いや考察について自分で考え、答を導く過程で考える力を養う。 必要に応じて視聴覚教材も活用する。
		対流圏における水の変化			○		
		太陽放射と地球放射		○	○		
8・9		地球を出入りするエネルギー		○	○		
		エネルギー収支の緯度分布			○	○	
9		大気の大循環		○		○	
		海洋の大循環		○		○	
	エルニーニョ現象とラニーニャ現象			○			
	(中間考査)		○	○			
10	宇宙と地球	宇宙の探究		○		○	授業では先生の説明を聞きながらプリント記入が中心となる。問いや考察については必ず自分で考えるようにする。プリントの気付いたことや感想の欄には、学んだことを自分の言葉で記入する。家庭学習では教科書とプリントを何度も見返す。とくに教科書の内容としっかり関連付けて理解するようにする。
		太陽の誕生		○			
		太陽の活動		○	○		
		太陽系の構造		○			
11		太陽系の誕生		○			
		太陽系の惑星		○		○	
		生命の惑星・地球		○	○		
12		(期末考査)		○	○		
						<知識・技能> 日常生活との関連を図りながら、地学的な物事・現象に関する原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 地学的な物事・現象に対して、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を表現する能力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 地学的な物事・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
12	生物の変遷と地球環境	地層の形成		○		○	<b>評価の方法</b>  <授業への取組> 授業に対する姿勢、学習態度、地学への関心などで評価する。 <観察・実験> 観察・実験に対する姿勢、考察、器具の操作、レポートなどで評価する。 <定期考査> 学習内容に応じて問題を出題する。
		地層の重なりと広がり		○	○		
		堆積岩		○	○		
1		化石と地質時代		○			
		先カンブリア時代・古生代		○	○		
		中生代・新生代		○		○	
		気候変動		○	○		
2	地球の環境	気象災害		○		○	
		地震災害		○		○	
		(学年末考査)		○	○		
3		学習のまとめ			○	○	
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。	

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	化学	単位数	2		
年組	2年3組理系		教科書(発行所)	化学(数研出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4 5 6 7	第1編 物質の状態 第1章 固体の構造	1結晶とアモルファス 2金属結合 3イオン結晶 4分子間力と分子結晶 5共有結合の結晶 (中間考査)	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	<b>学習の目標</b> 化学的な事物・事象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。自然現象における基本的概念や原理・法則を理解し化学的な自然観を身に付ける。	
	第2章 物質の状態変化	1粒子の熱運動 2三態の変化とエネルギー 3気液平衡の蒸気圧	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	<b>授業の進め方</b> 教科書・問題集を使用し、内容の理解・定着を図る。実験・観察を通して理解を深めるとともに、応用力を身に付ける。	
	第3章 気体	1気体の体積 2気体の状態方程式 3混合気体の圧力 4実在気体 (期末考査)	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		
	7	第4章 溶液	1溶液とそのしくみ 2溶解度 3希薄溶液の性質	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	<b>学習の方法</b> 学校では、授業に集中し実験には積極的に取り組む。疑問点などは必ず指導を受けること。家庭では、ノート、問題集を活用し復習を重点的に行う。
	8・9	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー	4コロイド 1化学反応と熱 2ヘスの法則 3化学反応と光	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	
	9	第2章 電池と電気分解	1電池 2電気分解	○ ○	○ ○	○ ○	
	10	第3章 化学反応の速さ	1化学反応の速さ 2反応条件と反応速度 3化学反応のしくみ	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
11	第4章 化学平衡	1可逆反応と化学平衡 2平衡状態の変化 3電解質水溶液の化学平衡 (期末考査)	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		
12	第3編 無機物質 第1章 非金属元素	1元素の分類と周期表 2水素・貴ガス元素 3ハロゲン	○ ○	○ ○	○ ○	<知識・技能> 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているとともに、観察・実験に関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	
1	第2章 金属元素(I)	4酸素・硫黄 5窒素・リン 6炭素・ケイ素 1アルカリ金属 2アルカリ土類 3アルミニウム・スズ・鉛	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	<思考・判断・表現> 自然の事物・事象に問題を見だし、思考を深め科学的に考察し表現できる。<主体的に学習に取り組む態度> 自然の事物・事象に関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度が身に付いている。	
2	第3章 金属元素(II)	1遷移元素の特徴 2鉄 3銅 4銀・金 5亜鉛 6クロム・マンガン	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	<b>評価の方法</b> 授業中の活動状況(授業態度、実験への取組)や提出物(ノート、問題集、実験レポート)及び定期テスト(小テストを含む)により評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。	
3		7その他の遷移金属 8金属イオンの分離・確認	○ ○	○ ○	○ ○		
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2		
年組	3年2組		教科書(発行所)	科学と人間生活(第一学習社)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	第I章 物質の科学 第1節 材料とその利用  第2節 衣料と食品	1プラスチック	○		○	<b>学習の目標</b>  日常生活や社会との関連を図りながら科学や地学への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を身につける。	
5		2金属	○		○		
6		3資源の再利用	○		○		
		(中間考査)	○		○		
7		1繊維	○		○		
		2栄養素	○		○		
7		(期末考査)	○		○		<b>授業の進め方</b>  授業を通して身に付けた知識を、実験を通して検証し、定着させる。
7	第II章 生命の科学 第1節 ヒトの生命現象  第2節 微生物とその利用	1タンパク質のはたらきと構造	○			<b>学習の方法</b>  授業の内容の復習を行うことで、知識の定着および科学的な感覚の習得を図る。問題集を活用し、理解の深化を図る。実験を通して、知識の検証を行う。日ごろから科学・地学関連のニュースに関心を持つことが望ましい。	
8・9		2血糖濃度	○		○		
9		3免疫	○		○		
		4ヒトの視覚	○		○		
10		1微生物	○		○		
		(期末考査)	○		○		
10		第III章 熱や光の科学 第1節 熱の性質とその利用  第2節 光の性質とその利用	1熱運動	○			○
11	2仕事や電流と熱		○		○		
	3エネルギー		○		○		
12	1光		○		○		
12	2電磁波	○		○			
	(期末考査)	○		○	<b>評価の観点</b>  <知識・技能> 日常生活との関連を図りながら、自然と科学技術について基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な技能を身に付けている。 <思考・判断・表現> 科学と人間生活との関わりについて問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現する能力を身に付けている。 <主体的に取り組む態度> 人間生活の中での科学の役割や課題について、主体的に関わりをもち、科学的に探究しようとしている。		
12	第IV章 地球や宇宙の科学 第1節 自然景観と自然災害  第2節 太陽と地球	1活火山	○		○	<b>評価の方法</b>  各考査、ノートの提出、実験レポート、小テストの合格状況、授業態度を総合的に判断して評価を行う。 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。	
1		2地震	○		○		
		3気象災害	○		○		
2		1太陽系	○		○		
		2月	○		○		
3	(期末考査)	○		○			
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2		
年組	3年2組		教科書(発行所)	科学と人間生活(第一学習社)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	第I章 物質の科学 第1節 材料とその利用  第2節 衣料と食品	1プラスチック	○		○	<b>学習の目標</b>  日常生活や社会との関連を図りながら科学や地学への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を身につける。	
5		2金属	○		○		
6		3資源の再利用	○		○		
		(中間考査)	○		○		
7		1繊維	○		○		
		2栄養素	○		○		
		(期末考査)	○		○		
						<b>授業の進め方</b>	
						授業を通して身に付けた知識を、実験を通して検証し、定着させる。	
7	第II章 生命の科学 第1節 ヒトの生命現象  第2節 微生物とその利用  第III章 熱や光の科学 第1節 熱の性質とその利用  第2節 光の性質とその利用	1タンパク質のはたらきと構造	○			<b>学習の方法</b>  授業の内容の復習を行うことで、知識の定着および科学的な感覚の習得を図る。問題集を活用し、理解の深化を図る。実験を通して、知識の検証を行う。日ごろから科学・地学関連のニュースに関心を持つことが望ましい。	
8・9		2血糖濃度	○		○		
9		3免疫	○		○		
		4ヒトの視覚	○		○		
10		1微生物	○		○		
		1熱運動	○		○		
11		2仕事や電流と熱	○		○		
		3エネルギー	○		○		
12		1光	○		○		
		2電磁波	○		○		
	(期末考査)	○		○			
						<b>評価の観点</b>	
						○関心・意欲・態度 ・自然の事物・事象に関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度が身に付いている。 ○思考・判断・表現 ・自然の事物・事象に問題を見だし、思考を深め科学的に考察し表現できる。 ○観察実験の技能 ・観察・実験を行い、基本的操作を習得するとともに、結果をまとめ科学的考察ができる。 ○知識・理解 ・自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
						<b>評価の方法</b>	
						・各考査、ノートの提出、実験レポート、小テストの合格状況、授業態度を総合的に判断して評価を行う。	
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	物理	単位数	5	
年組	3年3組理系		教科書(発行所)	高等学校 物理(啓林館)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	様々な運動 熱と分子運動	円運動と単振動	○	○	○	<b>学習の目標</b> 物理学の基本的な概念や原理・法則に関する理解を深め、物理的に探究する技能を身に付ける。 見通しをもって実験や観察を行い、物理的に探究する資質と能力を身に付ける。 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。
5		万有引力	○	○	○	
6	波動と音・光	気体分子の運動	○	○	○	
		状態変化と熱・仕事	○	○	○	
		熱機関の効率	○	○	○	
7	電界と電位	(中間考査)	○	○	○	
		波の性質	○	○	○	
8	電流	音の性質とドップラー効果	○	○	○	<b>学習の方法</b> 授業のノートは、板書したことだけでなく、自分で気付いたことや考えたことは全て書き記すよう心がける。実験の考察や演習問題は必ず自分で考え、自分の言葉で説明できるようにする。家庭学習では問題を自分で解くことはもちろん、答を出すだけでなく、さらに考察を深めようとする態度が、思考力を高めさせる。
		光の性質	○	○	○	
9	電流と磁界	レンズと球面鏡	○	○	○	
10	電磁誘導	光の回折と干渉	○	○	○	
		電位	○	○	○	
11	電子と光	コンデンサー	○	○	○	
		コンデンサーの接続	○	○	○	
12		電子と電流	○	○	○	<b>評価の観点</b> <知識・技能> 物理的な事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、物理的に探究するために必要な技能を身に付けている。 <思考力・判断力・表現力> 物理的な事物・現象に関して観察や実験を行い、得られた結果を分析して表現する能力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。
		直流回路	○	○	○	
12		半導体	○	○	○	<b>評価の方法</b> 定期考査だけでなく、課題の提出状況、実験観察の記録や考察などをもとに評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。
		電流が流れる磁界	○	○	○	
12		電流が磁界から受ける力	○	○	○	<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。
		ローレンツ力	○	○	○	
1		(中間考査)	○	○	○	<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。
		電磁誘導の法則	○	○	○	
1		磁界中を運動する導体	○	○	○	<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。
		自己誘導と相互誘導	○	○	○	
2		交流	○	○	○	<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。
		電気振動と電磁波	○	○	○	
3		電子の質量と電荷	○	○	○	<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。
		光の粒子性	○	○	○	
3		(期末考査)	○	○	○	<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。
		X線	○	○	○	
3		粒子の波動性と原子モデル	○	○	○	<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。
		原子核と放射線	○	○	○	
3		核反応	○	○	○	<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。
		核エネルギー	○	○	○	
3		素粒子と宇宙	○	○	○	<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。
		(学年末考査)	○	○	○	

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	化学	単位数	3	
年組	3年3組理系		教科書(発行所)	化学(数研出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4 5 6 7	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物	1有機化合物の特徴と分類	○			<b>学習の目標</b> 化学的な事物・事象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。自然現象における基本的概念や原理・法則を理解し化学的な自然観を身に付ける。
		2有機化合物の分析	○			
		1飽和炭化水素 2不飽和炭化水素		○		
		1アルコールとエーテル 2アルデヒドとケトン	○			
		3カルボン酸 4エステルと油脂	○			
		(中間考査)	○	○		
		1芳香族炭化水素	○			
2フェノール類と芳香族カルボン酸	○					
3芳香族アミンとアゾ化合物	○					
4有機化合物の分類		○	○			
		(期末考査)	○	○		<b>授業の進め方</b> 教科書・図説・問題集を使用し、内容の理解・定着を図る。実験・観察を通して理解を深めるとともに、応用力を身に付ける。
7 8・9 9 10 11 12	第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物	1高分子化合物の構造と性質	○			<b>学習の方法</b> 学校では、授業に集中し実験には積極的に取り組む。疑問点などは必ず指導を受けること。家庭では、問題集を徹底的に活用し学力を身に付ける。
		1糖類	○			
		2アミノ酸とタンパク質	○			
		3核酸	○			
		1合成繊維	○			
		2合成樹脂		○		
		3ゴム		○		
		演習問題		○	○	
		〃		○		
		〃		○		
		〃		○	○	
		〃		○		
(期末考査)	○	○				
12 1 2 3		〃	○			<知識・技能> 自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているとともに、観察・実験に関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 <思考・判断・表現> 自然の事物・事象に問題を見だし、思考を深め科学的に考察し表現できる。 <主体的に学習に取り組む態度> 自然の事物・事象に関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度が身に付いている。
		〃	○			
		〃	○			
		〃	○			
		〃	○	○		
		〃	○	○		
				<b>評価の方法</b> 授業中の活動状況(授業態度、実験への取組)や提出物(ノート、問題集、実験レポート)及び定期テスト(小テストを含む)により評価する。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。		
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	生物	単位数	5	
年組	3年3組 理系		教科書(発行所)	高等学校 生物(啓林館)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第3章 進化のしくみ	1 突然変異と進化	○	○	○	<b>学習の目標</b>  日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
	第4章 生物の系統	1 生物の分離と系統	○	○	○	
	第5章 生命と物質	2 3ドメイン説と人類の進化	○	○	○	
5	第5章 生命と物質	1 物質と細胞	○	○	○	
	第6章 代謝	2 生命現象とタンパク質	○	○	○	
	第6章 代謝	1 代謝とエネルギー	○	○	○	
	第6章 代謝	2 呼吸	○	○	○	
6	第6章 代謝	呼吸気質と呼吸商	○	○	○	<b>授業の進め方</b>
	第7章 遺伝情報の複製	3 光合成	○	○	○	
7	第7章 遺伝情報の複製	1 遺伝子DNA	○	○	○	・授業を通して身に付けた知識を、実験・観察を通して検証し、定着させる。 ・問題集を用いた演習で、理解の深化を図る。  <b>学習の方法</b>  授業の内容の復習を行うことで、知識の定着および科学的な感覚の習得を図る。また、問題集を活用し、理解の深化を図る。実験・観察を通して、知識の検証を行う。そのため、日ごろから生物学関連のニュースに関心を持つことが望ましい。  <b>評価の観点</b>  ○知識・技能 自然の事物・現象について概念や原則・法則など理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。 ○思考・判断・表現 自然の事物・現象から問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。 ○主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
7		2 遺伝子の発現	○	○	○	
		3 遺伝子の発現調節	○	○	○	
		〃	○	○	○	
8・9	第8章 発生と遺伝子の発現	1 動物の配偶子形成と受精	○	○	○	
	第8章 発生と遺伝子の発現	〃	○	○	○	
9	第8章 発生と遺伝子の発現	2 発生初期の過程	○	○	○	
	第9章 バイオテクノロジー	3 発生と遺伝子の発現	○	○	○	
	第9章 バイオテクノロジー	1 遺伝子を扱った技術	○	○	○	
	第9章 バイオテクノロジー	(中間考査)	○	○	○	
10	第10章 刺激の受容と反応	1 刺激の受容と神経	○	○	○	
	第10章 刺激の受容と反応	2 神経系	○	○	○	
	第10章 刺激の受容と反応	3 効果器	○	○	○	
	第11章 動物の行動	1 生得的行動	○	○	○	
	第11章 動物の行動	2 学習	○	○	○	
11	第12章 植物の環境応答	1 植物の生殖と発生	○	○	○	
	第12章 植物の環境応答	2 発芽と成長	○	○	○	
	第12章 植物の環境応答	3 植物ホルモン	○	○	○	
12	第12章 植物の環境応答	(期末考査)	○	○	○	
12	第13章 個体群と生物群集	1 個体群とその変動	○	○	○	<b>評価の方法</b>  各考査、ノート提出、実験等のレポート、小テストの状況、授業態度を総合的に判断して評価を行う。また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階の評定に総括する。
	第13章 個体群と生物群集	〃	○	○	○	
	第13章 個体群と生物群集	2 種内関係と種間関係	○	○	○	
1	第14章 生態系	1 生態系と物質生産	○	○	○	
	第14章 生態系	2 生態系と人間生活	○	○	○	
	第14章 生態系	〃	○	○	○	
2	第14章 生態系	(学年末考査)	○	○	○	
3	第14章 生態系					

**【備考】**

※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。

# 令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	理科	科目	理科探究	単位数	2		
年組	3年3組文系		教科書(発行所)	生物基礎(東京書籍)/高等学校地学基礎(第一学習社)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	地球のすがた 生物の特徴	地球の概観 プレートの運動 生物の多様性と共通性 生物とエネルギー	○	○	○	<b>学習の目標</b>  観察した事実や実験データなどから考えることを通して、科学的な見方や考え方を身に付ける。 生物基礎や地学基礎で学んだ内容をより深く理解し、生活との関わりの中で考える力を養う。 自らの考えを文章などにまとめ、表現できる能力を身に付ける。	
5	地球の活動	地震 火山	○	○	○		
6	遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA 遺伝情報とタンパク質	○	○	○		
7		(期末考査)	○	○	○		
<b>授業の進め方</b>							
7	大気・海洋	太陽放射とエネルギー	○	○	○		2年次の生物基礎と地学基礎の復習を行いながら、さまざまな学習課題に自ら取り組むアクティブラーニングを中心として学習を進める。 必要に応じて視聴覚教材やICTを活用する。
8・9		大気・海洋の循環 海洋の循環	○	○	○		
9	ヒトの体の調節	自律神経系による情報伝達 ホルモンによる情報伝達 獲得免疫 免疫とさまざまな疾患	○	○	○		
10	宇宙と地球	太陽の活動 太陽系の誕生 惑星	○	○	○		
11	生物の多様性と生態系	植生 バイオーム 生態系における生物の多様性 生態系の保全	○	○	○		
12		(期末考査)	○	○	○		
<b>学習の方法</b>							
授業では自分で問題を解きながら、自分の考えを説明することが中心となる。問いや考察については必ず自分で考え、気づいたことや感想は自分の言葉で書くようにする。 家庭学習では教科書、問題集、プリント等を何度も見返す。とくに教科書の内容としっかり関連付けて理解するようにする。							
<b>評価の観点</b>							
12	生物の変遷と地球環境	化石と地質時代 地球と生物の変遷	○	○	○	<知識・技能> 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や地学について基本的な概念や原理・法則を理解している。 <思考力・判断力・表現力> 生物と地学に関する問題を見出し、観察、実験で得られた結果を表現する能力を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> 生物と地学に関する自然現象や科学技術に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	
1	地球の環境	気候変動 気象災害 地震災害	○	○	○		
2		(学年末考査)	○	○	○		
3			○	○	○		
<b>評価の方法</b>							
<授業への取組> 授業に対する姿勢、学習態度、生物への関心などで評価する。 <観察・実験> 観察・実験に対する姿勢、考察、器具の操作、レポートなどで評価する。 <定期考査> 学習内容に応じて問題を出題する。							
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							
また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。							